

古地磁気・岩石磁気研究会活動報告

2009年夏の学校幹事：齋藤武士(信州大学)

今年も研究会の活動として以下の会合を行ったのでここに報告する。

2009年古地磁気・岩石磁気夏の学校

日時：平成21年9月13～15日

場所：国立信州高遠青少年自然の家

今年の夏の学校には42名(教員・研究者18名(うち外国人研究者1名)、学生24名)の方が参加され、13日午後から15日午前まで計15件の講演が行われた。内容は、古地磁気・岩石磁気・環境磁気・惑星磁場・テクニクス・IODP・磁気異常などに関する最新の研究結果、レビュー、今後の研究計画の紹介等であった。ほとんどがSGEPSSを活躍の場とされているベテラン研究者(ポスドクを含む)の発表だったが、学生による発表も2件あった。会場で交わされた活発な議論や鋭い指摘は発表した学生のみならず、参加した学生諸氏にとっても大きな経験となったであろう。夕食後は学生を含めほとんどすべての参加者が持ち寄ったポスターを前に自由に議論を行い、親睦を深めた。なお詳細なプログラム等は

<http://science.shinshu-u.ac.jp/~geol/saito/labo/09magne/index.html>に掲載してある。

14日午後は会場を離れ、会場の南に位置する高遠町の周辺に露出する中央構造線と三波川・領家変成帯を観察する巡検を行った。当日は天気にも恵まれ、露頭の各所で議論が交わされ、何人かの方を核にした野外教室が自然と形成されていた。近年の夏の学校では、このような巡検が計画されていなかったようなのであえて計画したのだが、概ね好評であったのではないかと推察する。次回(2010年)の開催は岡山大学の宇野康司さんの担当で行われることが決まった。

個人的な感想になるが、私はこのような会合のお世話をするのは初めてだったが、非常に大変であることが良くわかった。本会報の201号で河野長先生がこの夏の学校についてコメントされているが、それでも私はこの会合の意義は大きいと感じている。私自身、名前しか知らない、あるいは名前も知らない大先生と議論をし、懇親を深めることができたのは、この夏の学校であった。これまで継続されてきた先人たちに対する敬意を深くするとともに、今後の更なる発展に微力ながら貢献できればと思う。最後に、巡検地について案内していただいた信州大学の森清壽郎教授、巡検に協力してくださった愛知教育大学の星博幸氏、また夏の学校期間中手助けしてくださった参加者の皆様に対して、この場を借りて深く御礼申し上げます。

